

調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議員 勝 浦 伸 行 様



報告年月日	令和6年2月13日(火)		
実施日(期間)	令和6年1月27日(土)～令和6年1月28日(日)		
実施場所 (行先等)	1日目 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 2日目 東京都千代田区丸の内3丁目1-1 国際ビル		
事業区分 (いずれかに○)	研 修 調査研究 要望・陳情活動 会議		
事業内容	1日目 現場視察 上智大学北口 15号館 国産材を活用した優れた建築物・木質空間を表彰する「ウッドシティ TOKYO モデル建築賞」受賞 2日目 地方議員研究会 人口減少対策特別研修 午前「人口減少に勝ち抜く戦略」 午後「人口減少と共存する方策」		
報告者	(会派名) 清和会	(代表者)	佐藤 浩
参加者	議員 小山雄幸 議員 佐々木久助 議員 菅原行奈	議員 沼倉憲二 議員 門馬 功	議員 千田恭平 議員 那須 勇
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙 2. 概要・・・・・・・・別紙 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙		
主要資料名	別紙1 人口減少に勝ち抜く戦略		
	別紙2 人口減少と共存する方策		

別紙

1. 目的

(1日目)

森林を地域の資源という視点から着目した、「地元の森林を活かす一関市林業振興条例」に鑑み、林業・木材産業の成長を図ることを目的とした、木材使用の新たな可能性を開拓する革新的モデル的な建築物を視察することで、当市の木材を利用した施設の参考とするため、その情報収集を図ることを目的とする。

(2日目)

当市において、少子高齢化及び人口減少等の進行により、地域の活力の低下など多方面に大きな影響を及ぼすことが懸念されていることから、活力あるまちをさらに発展していくためには、これらの課題に正面から向き合い、まちづくりを進めていかななくてはならない。当市の最大の課題である人口減少について、他自治体の事例などを参考に、当市に適した政策をどのように展開していくか、手がかりとなる戦略と方策を把握することを目的とする。

2. 概要

(1日目)

国産材を活用した木材利用の新たな可能性を開拓する革新的・モデル的な建築物に与えられる優れた建築物・木質空間に表彰された、上智大学四谷キャンパス 15号館を視察した。

当施設は、東京都が国産材を活用した優れた建築物・木質空間を表彰する「ウッドシティ TOKYO モデル建築賞」において奨励賞を受賞した。同賞は、多摩地域をはじめ全国の森林循環を促進し、林業・木材産業の成長を図ることを目標として、木材利用の新たな可能性を開拓する革新的モデル的な建築物に与えられるもの、15号館は、環境負荷が少なく CO2 排出量の削減と森林資源の循環利用推進の観点から木造で建築され、2022 年秋より供用を開始している。

(2日目)

地方議員研究会が主催する、人口減少対策特別研修を受講した。

午前の部 「人口減少に勝ち抜く戦略」

- ① 地方創生とは、・まち・ひと・しごと創生について
- ② 日本の将来人口推計について
- ③ 人口減少を勝ち抜く視点について
- ④ シティプロモーションとは何か、・地域の売り込みについて
- ⑤ ブランドを作ってからセールスプロモーションについて
- ⑥ おわりに 議会質問のヒントについて
 - ・人口を維持増加するために、何に特化して政策を進めているのか（何とは自然増の4視点、社会増の2視点）
 - ・シティプロモーションを実施しているか。実施している場合は、戦略を持って

進めているか

- ・シティプロモーションの政策目標があれもこれもになっていないか（規模の小さな自治体ほど、絞り込まないと成果はでない）
- ・アテンション（認知、市民に知ってもらうこと）を意識したシティプロモーションになっているか（ターゲットに即したアテンションが大事）
- ・シティプロモーションの前に地域ブランドを構築しているか。地域ブランドはターゲットに即した内容となっているか、など。

午後の部 「人口減少と共存する方策」

- ① 地域活性化の事例について
- ② 地域ブランドとは何かについて
- ③ 地域イメージ構築の必要性について
- ④ 近年の地方創生について
- ⑤ シビックプラウドについて、シビックプラウドとは何か
 - ・防災活動に積極的に参加する。
 - ・継続居住意向を示す。
 - ・地域活動へ積極的に参加する意思が高まる。
 - ・町内会活動やまちづくり活動等の地域活動に熱心になる。
 - ・地域への責任感が強まる。
 - ・個々人の生活満足にプラスの効果が認められる。
 - ・NPO 活動が活発化する。
 - ・出身者の U ターン傾向が強まる。
- ⑥ 縮小均衡を目指した行政経営について
 - ・行政の安定を維持しながら、人口規模を縮小すること。
- ⑦ おわりに 議会質問のヒント
 - ・地域を活性化するために、現在の地域資源をおさえたいうえで進めているか（あるもの探し）。その地域資源をターゲットに即して付加価値をつけているか。
 - ・先進事例は成功事例であるか。何をもちて成功事例と言えるのか。
 - ・ブランドとは「差別化」である。他自治体との差別化ができていないか（多くが踏襲化、模倣化となっている）。
 - ・地域ブランドランキングを意識していない「地域づくり」ができていないか。
 - ・地域の誇りや愛着を高めるシビックプライドを重視した政策が展開できているか。
 - ・関係人口性善説にたっていないか。
 - ・関係人口を冷静に把握できているか、など

3. 参考とすべき事項・所感

(1 日目)

建物の外装は、多摩産の木材を交差させた格子で覆うデザインで、建学の理念に連なる「多様性」「他者との交流」「真理」「伝統」を表現している。また、今回内部までの視察とならなかったが、内装（参考写真3階教室）にも木材を積極的に使

用し、外部格子の隙間から室内にやわらかな自然光が差し込み、施設利用者の快適性と生産性の向上にも期待が寄せられている。

今後の当市の木材利用教育施設や商業施設など非住宅建築分野での木造化・木質化を推進できることから大いに参考となった。

(2日目)

「人口減少に勝ち抜く戦略」

シティプロモーションとは、ある地域の認知度向上やブランド力向上を目的として行われる活動のことで、地方自治体によって行われる。簡単に言えば、地域の自治体による「広報活動」や「営業活動」のこと、また、地域外だけでなく現在地域で生活をしている住民に対して地域のさらなる魅力をアピールしていくことも、シティプロモーションの目的の1つ、住民の皆さんに「この地域に住んでよかった!」と思ってもらえるような情報発信を、内部に向けても行っていく必要がある。シティプロモーションの取り組み、考え方が非常に参考となった。

【参考事例】

戸田市のシティセールス戦略

熱海市の地域経済の活性化を図る一連の活動

八王寺市の魅力を市内外に積極的に発信

福岡市が首都圏における企業誘致や観光プロモーション

「人口減少と共存する方策」

活動人口の創出は、人口が減っても元気で価値ある地域になる。活動人口とは、「地域に対する誇りや自負心を持ち、地域づくりに活動する者」、活動人口が増えれば、人口が減少しても、地域は輝いている。

活動人口とは、「地域に対する誇りや自負心を持ち、地域づくりに活動するもの」、活動人口を創出獲得して行くためには、シビックプライドや郷土愛が有効であり、共有・共感・共創がポイントとなる。活動人口の創出、考え方について参考となった。

【参考事例】

相模原市の実践「さがみはらみんなのシビックプライド向上計画」

三島市の「三島市共創指針」

大田市の「大田市共創のまちづくり行動指針」

福島市の「福島市共創のまちづくり推進指針」

門真市の「門真市公民共創指針」

【研修写真】

上智大学 15号館



上智大学 15号館 正面



上智大学 15号館 全景



参考 上智大学 木材の温もりを感じられる3階教室の内観



人口減少対策 特別研修

